

# 安寧



兵庫縣姫路護國神社社報  
 「安寧」第二十八号  
 発行所 兵庫縣姫路護國神社  
 〒650-0033 姫路市本町二一八  
 電話〇七九一二四一〇八九六  
 安寧(あんねい)世の中が穏やかで平和なとこ

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

## 英霊の言乃葉

### 私が死んだら

陸軍少尉 山川弘至 命

昭和二十年八月十一日  
台湾屏東南飛行場にて戦死  
岐阜県郡上郡八幡町出身二十八歳

私が死んだら 私は青い草のなかにうづまり こけむしたちひさな石をかづき青い大空のしづかなくものゆきかひを いつまでもだまつてながめてるやう。

それはかなしくもなくうれしくもなく 何となつかしくたのしいすまひであらう。 白い雲がおとなくながれ 嵐が時になつて頭上の木々をゆすぶり ある朝は名も知らぬ小鳥来てちちとなき 春がくればあかいうら青い芽がふき出して私のあたまのうへの土をもたげわたしのかづいてゐる石には 無数の紅の花びらがまふであらう。

そして音もなく私のねむる土にちりうづみやがて秋がくると枯葉が 日毎一面にちりしくだらう。

私はそこでのたくもなくかなしくもなく ちつと土をかづいてながいねわりに入るだらう。

それはなんとなつかしいことか。

黒くしめつたにほひをただよはせ 私の祖父や曾祖父や そのさき幾代も幾代もの祖先たちがやはりしづかにねむるなつかしい土その土の香になつかしい日本の香をかぎ 青い日本の空の下で 私は日ごとこけむす石をかづき 天ゆく風のおとをきくだらう。

そして時には時雨がそよそよとわたり あるときは白い雪がきれいにうづめるだらう。

それはなんとなつかしいことか。

そこは父祖のみ魂のこもる日本の土 そこでわたしはちつといこひつつ いつまでもこの国土をながめてゐたい。

ただわたしのひとつのねがひは

—— ねがわくは 花のもとにて 春死なん

そのささらぎの もち月のころ ——

【平成二十二年四月靖國神社社頭掲示】



# 兵庫縣姫路護國神社 歴史講座開かれる

四月十日

護國神社とはどんな神社なのか？護國神社の歴史、ご英霊について、そのご神徳についてなど護國神社の基礎知識をはじめ、軍都「姫路」の歴史、兵庫県西部地域の英霊祭祀の歴史を話そうとの趣旨の元、護國神社研究家の山中浩市氏による講演がコロナ禍の為四十名に制限して参集殿で行われた。山中氏は「全国護國神社巡拝ガイドブック」や「まんが護國神社へ行こう」を編纂されただけに、当日は深い知識で軽妙に話されたので、あっという間の二時間三十分であった。

第二回も開催をとの要望もあり、本年十一月五日の土曜日にイーグレひめじ三階のあいめつせホールで百三十名の定員で行うことが決定された。



# 齋藤知事が来社

四月十日

兵庫県の齋藤元彦知事は、昨年の夏、就任される前と就任直後、そして今回と三度に渡ってご来社され、私的に参拝された。今回は会館において宮司、三木総代会長、木南崇敬奉賛会運営委員、三枝隊友会姫路支部長らと懇談された。

丁度当日は午後から、別掲記事の山中浩市氏による講演会が予定されており、講師とも和やかにお話しされた。



兵庫県の齋藤元彦知事は、昨年の夏、就任される前と就任直後、そして今回と三度に渡ってご来社され、私的に参拝された。



# 崇敬奉賛会 総会開催される

四月十八日

理事二十二名の御出席、七名の委任状の提出のもと崇敬奉賛会総会が開催された。

冒頭、三宅知行崇敬奉賛会会長は挨拶で、「本日、発会式から数えて第十二回目の崇敬奉賛会総会を、規約に則り理事以上の三十一名の役員の方々にご案内招集させていただきました。多岐にわたるご多端にもかかわらず、多数ご出席を賜り誠に有難うございます。崇敬奉賛会設立の目的は、英霊に感謝と報恩の誠を捧げることが第一義であります。その御功績を子々孫々にまで変えることなく顕彰し伝えていくことも、大きな使命のひとつでもあります。」と述べ、コロナ禍で一年遅れとなり昨秋実施された十年事業に触れ、運営委員会の努力に謝意を述べられた。

また記念事業としてより深く神社を理解し



ていただくために五枚の案内版を境内に設置されたこと、合わせて十年の記録をつづった冊子を作製、会員の方々に全員に送ったことなどを報告された。そのあと宮司から役員に対する感謝の言葉があった。

議事に入り、令和三年度の事業及び決算報告、また、令和四年度の事業計画及び予算などが審議され、全会一致で議決された。

最後に釜谷研造副会長からスムーズな議事進行に御礼が述べられ、今後の崇敬奉賛会の発展と会員増強への協力依頼があり閉会した。



# 令和四年度 春季例大祭 齋行

五月二日 午前十時三十分

五月晴れの中、新緑が萌える境内で恒例の祭典が斎行された。

本年は三年ぶりにご遺族・来賓・崇敬者約三百名の参列を迎えた中で、肅々と執り行われた。



三宅会長祭文奏上並びに玉串拝礼

定刻十時三十分の号鼓とともに宮司以下奉仕する神職、三木大祭委員長・三宅崇敬奉賛会会長・釜谷崇敬奉賛会副会長・柿原兵庫県遺族会会長が参進し、祭典が始まった。修祓の後、海川山野の神饌を捧げ、茶道裏千家淡交会西播磨支部及び西播磨青年部による献茶、宮司祝詞奏上と続いた。玉串奉奠は宮司以下祭員が併せて行った後、三木大祭委員長、三宅崇敬奉賛会会長、



献茶の儀

遺族代表による祭文奏上並びに玉串拝礼と続き、来賓代表に併せて参列者が参拝した。姫路市民合唱団による合唱奉納、詩吟の奉納は新型コロナウイルス感染防止の為、中止された。



宮司挨拶

宮司は挨拶で、大祭は、現在の平和は先人の努力のたまものであることを再確認する祭典で、日本の道徳観や条理は自然とともにあり、私たちに受け継がれた命に対する感謝こそが神を敬う心だと説いた。また、大東亜戦争終結後、千島列島北東の占守島にソ連が侵攻した折、兵庫県ゆかりの樋口季一郎中将の指揮の元、武装解除をしていた日本軍は再び武器をとり防衛



の任に当たったことに触れ、この決断がなければ日本が分割統治されていた可能性があることを述べた。そして、私たち子孫の務めは、明治以来の戦役、事変、戦争という国家の

受難の時代に生まれ、殉じられた方々を讃えることであり、困難に立ち向かわれた英霊の大御稜威をいただき令和の御代が平和で国家安泰であることをともに祈りたいと結んだ。

祭典受付は毎年姫路郷友会（会長村田定克氏）の方々が奉仕している。

### 鳥居の点検洗浄工事 行われる 七月十一日〜七月二十一日

鳥居は、神域の結界を表し、「くぐると身が引き締まる思いがする。」と参拝者の方からよくお聞きする。

護國神社鳥居は建立よりすでに八十年を越え、姫路でも震度4を記録した平成七年の阪神淡路大震災も経ているので、運営委員会

協議ののち、イワミ石材興業に委託し点検も兼ねて雨風や樹木で汚れた部分の洗浄を行った。七月八日、鳥居工事安全祈願祭を斎行し、十一日より約十日間の行程で開始した。点検の結果、ほぼ左右前後にも傾きはなかったが、石の一部が風化した部分が見つかり修理を行った。足場を組んだ機会に、普段届かないところで、鳥居にかかっている高所の樹木の剪定も行った。高圧洗浄により鳥居は白く輝きを増した。



### 英霊感謝祭ならびに 英霊顕彰の集い 八月十五日

晴天に恵まれた八月十五日、英霊感謝祭ならびに英霊顕彰の集いが開催された。午前十時に本殿において、泉宮司以下神職の手により厳かに英霊感謝祭が執り行われた後、会場を参集殿に移し、崇敬奉賛会々員による「英

霊の言乃葉」の朗読、電子紙芝居「占守島の戦い」が上映された。

正午が近づくと、本殿前に参拝者が集まり、

東京九段の日本武道館にて開催さ



れている全国戦没者追悼式のラジオ放送に合わせ、正午に黙祷を捧げるとともに天皇陛下のお言葉を拝聴し、戦没者を偲んだ。

午後は昼休憩を挟み、再び会場を参集殿へと戻し、崇敬奉賛会々員による「英霊の言乃葉」の朗読、そして、前川英昭氏による「サンフランシスコ講和条約から七十年」の解説

の後、崇敬奉賛会有志による朗読劇「最後の御前会議」が上演された。英霊顕彰の集いの最後の演目は、尼子尚公氏による「終戦の詔書と主権回復までの道のり」と題した終戦の詔勅の解説が行われ、参加者は大東亜戦争の終結をめぐり、当時の国家首脳がその後の国に行く末を極限まで悩みぬいた末の終戦であったことに思いを巡らせることができた。

例年通り、崇敬奉賛会々員を始め、諸団体

のご協力、お手伝いをいただいた。ここ数年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、思うような運営ができなかったが、今年は行動制限も解かれ、感染対策に気を遣いながらも例年に近い英霊感謝会、英霊顕彰の集いとなったのではないかと思う。



戦後七十七年を迎えて、戦争体験者や遺族も鬼籍に入られたり、高齢化も激しいが今年も若い世代の参加者がおられたことで、次の世代に英霊顕彰の思いを引き継いでいくことが崇敬奉賛会の役目であるので、これからも皆さんの協力を得て、志を広めていきたいと思う。



## 映画「めぐみへの誓い」 姫路上映会

六月二十六日(日) 姫路キヤスパホールで、映画「めぐみへの誓い」を上映しました。

この上映会は、兵庫縣姫路護國神社をはじめ、多くの協賛団体や企業のお陰で実現することが出来ました。映画は北朝鮮に拉致された横田めぐみさんや田口八重子さんが、どのようにして日本から連れ去られたか、北朝鮮でどのような生活を送っているのか、また日本に残されたご家族はどんな日々を送ってきたかが描かれている映画です。私が、この映画を姫路上映しようと思ったのは、横田めぐみさん



も田口八重子さんもまだ北朝鮮に残されたままで拉致事件は現在進行形なのに、政府をはじめ国民の関心が薄れていると感じたからです。

この上映会の四ヶ月前に、ウクライナ戦争がはじまり政府がウクライナに三百八十八億円の支援を行うと発表しました。また、姫路市もウクライナ支援として難民を受け入れると発表しました。困っている人を助けるのに反対はしませんが、同胞を助けないで外国人を助けることに私は疑問を感じています。この上映会も、本来であれば姫路市が率先して行うべきことです。しかし、民間の心ある人たちがお金を出し合っ上上映会を行っているのが、姫路だけでなく現在の日本の状況です。

拉致被害者家族の人たちは「家族会」というものを結成して、拉致被害者救出の署名活動を行い政府に提出したり、アメリカ力行して拉致問題の実態を大統領や議員に説明されたりしています。そんな拉致家族に対して、日本の国会議員は「頑張ってください」と言う人がいました。これは、例えば鉄

道が脱線する事故が発生した時に、乗客の家族が助けに行くようなものです。さらに、消防や警察の人達が「気をつけて救出して下さい」と言っているようなものです。日本の国民が、ここに疑問を持たなければ、この問題は解決しません。

私が護國神社の社殿の前で、考えるのは『先人達であれば必ず助けに行っていたらどうか』ということですが、なぜ、そう思うかという、それは今と違って先人達は「公」を大切にしていたからです。「公」はイコール「日本」と言えるのですが、今回は、理解を容易にするために「公」で統一します。

拉致問題について、こんなことを言った人がいます。何十年も向こうで暮らしていたら、向こうの生活に馴染んでしまい、日本に帰ってきたても生活出来ないかもしれない。「助けに行ったら所で、日本に帰ることを拒否されたらどうするの?」この発言に、もし理解を示された方がいれば、それは要注意です。なぜなら、この発言は「公」を無視しているからです。近年、公と個人が同列に扱われることが多くなり、その境目がわからなくなっている気がします。

十年前の話ですが、元海上自衛隊の特別警備隊長が、女性のリポーターから「もし、北朝鮮に拉致された人を奪還する作戦が命令され、現地に助けにいったものの、長い年月が経過しているので救助者達が『もう日本に帰らない、ここに残る』と言ったら、どうしますか?』という質問をされました。隊長は躊躇なく「日本に連れて帰ります」と言われましたが、すぐに女性は「嫌がっているのを無理矢理連れて帰るのですか?』と言いました。隊長は同じ調子で「個人の感情は関係がありません、拉致被害者奪還は国家の意思ですから連れて帰ります」と言われました。「命令だから」という言葉に逃げずに、本質を説明してくれたように感じました。そして気付かされたのは『国家の意思』というのは、現在を生きている我々だけではなく、二百五十万柱の英霊や先祖達の意志も含んでいるということです。それが「公」と呼ばれるものだとその時強く感じました。この「公」を多くの国民が意識するようになれば、拉致被害者の奪還は元より、その他多くの問題が解決に向かうことでしょう。

# シリーズ 英霊の戦場(九)

## 郷土の偉人 田中静壹陸軍大将の功績(二)

### 軍人時代(大東亜戦争間)

昭和一六年二月 参謀本部附

昭和一七年八月 比島方面第十四軍司令官

関東軍・支那派遣軍・南方軍司令官と同等の陛下直轄の司令官で任命時は勅語を賜った。陛下から「如何にして任務を達成するや」に「治安の回復と作戦準備の完成を任務遂行の主眼と考えます」と奉答して陛下が肯かれた。同期の本間雅晴中将と交代後、「身命を賭して比島の建設に努力す」と訓示、然し、米軍はゲリラ組織を各地に潜伏させて、反攻作戦の情報収集や民心の攪乱等を行っていた。田中司令官は現地の巡察が第一と考え、危険を顧みず実行され「民心把握の要訣は軍紀の厳正に在り」として、民心の安定に重点を置かれて軍政を信頼する村田顧問に一任。ゲリラ活動は住民からの情報提供により指導者の捕獲に成功、比島官民の意見や希望を聞かれて実行する等により好感をもたれ離島を除いて治安を回復された。昭和一八年三月、疲労が重なったのかセブ島で原因不明の熱病となる。病態を耐えて軍務を遂行するも四月遂に病床に伏する事態に。五月東條首相が比島訪問時、田中司令官の重態を知る。後任の黒田中将に「ゲリラ討伐が不十分で申し訳ない」と無念の言葉を残して八月帰国をされ、直ちに東京



田中大将と軍人になられた4人の御子息

第一衛戍病院入院。

田中中将は予備役を希望され、東條首相は陛下に「中将のままで予備役」と奏上されたが、陛下は「多年の功労を賞し大将に進級せしめよ」と特別のお言葉を賜り、九月任陸軍大将。

軍医の懸命の治療にも拘わらず田中大将の病状は回復せず。一〇月末、操夫人の献身的な看護と信仰心のお蔭で奇跡的に回復に向かう。

### 昭和一九年春 伊豆療養所で体力回復に専念

八月 比島第十四方面軍司令官に同期の山下奉文大将が着任、其の参謀に長男光佑少佐が作戦補佐の要職に、田中大将の功績を継ぐべく抜擢されて派遣されている。

### 八月 陸大校長兼ねて軍事参事官

陸軍は戦線の拡大や兵団の増設で参謀養成が追いつかず作戦指導に重大な欠陥が生じつつあった。陸大修業期間も三年から一年に短縮される速成教育から更に年間二期入校させる短期養成であった。大将は「対米作戦必勝の道は、敵に出血を強要する以外に無し」と学生の品性・資質・実行力・責任感の養成を重視し、且つ教官の資質の向上も図られた。現地戦術で関東地方を隈なく視察され、対米上陸作戦を研究された。この事が東部軍管区を田中大将に一任させる元となった。

昭和二〇年三月九日

東部軍管区司令官兼第十二方面軍司令官を拝命

(専属副官塚本少佐)

同日夜、B29・二八〇機による空爆で首都東部地区は灰燼と化す。田中司令官の苦闘が始まる。

方面軍は五箇軍団(九箇師団と七箇旅団)と機動打撃兵団で編成、兵站基地や兵団は空爆被害対策として分散配置で備えた。

戦力発揮に支障となる問題点を把握された司令官は直ちに現時点で配置されている前線視察を一ヶ月掛けて綿密に実施された。多くの将兵は陣地構築に明け暮れ、疲労困憊する部隊を見て、水際か奥地決戦か未定の段階での陣地構築は士気低下の要因と考えられた。又、部隊の訓練練度の低さも悟られ、各司令官に戦闘訓練を重視するよう指示された。

### 田中軍司令官の作戦計画(地図参照)



\*上陸予想時期は双方とも戦争意思継続の場合は

二一年春か、最悪の場合は二〇年一〇月、従つてこの時期までに作戦準備を概成。

\* 予想上陸地点と兵力は相模湾・九十九里浜・鹿島灘、陸上兵力三十箇師団（海空軍は略）

### 参考 米軍の日本侵攻計画案（地図に付記）

沖繩戦後、秋に九州南部に楔型に上陸、次で一九四六年春に関東地域の相模湾と九十九里浜から一二箇師団で上陸し京浜地区占領後、更に一二箇師団を増派する計画が準備されていた。

### 終戦への経緯

五月 ドイツ降伏後の処置について会議、七月ポツダム宣言が海外向けで放送、八月広島・長崎に原爆投下、九日ソ連参戦。日本はポツダム宣言受諾を連絡。同日最高戦争指導会議・御前会議でも受諾条件の結論出ず。終に聖断によりポツダム宣言受諾同意に決まる。

田中司令官は八月一四日まで迷う事なく防御準備促進を指導されていた。

### 宮城占拠事件

八月一二日 陸軍省内で一部の将校が和平派を弾圧して国体護持する計画を作成。一三日和平派を兵力使用で強制退去する案が否決。一四日七時半阿南陸相は田中司令官に「治安維持を厳にすべき」旨指示。無言で承知。

軍務局の某少佐が近衛第一師団某参謀と協同して宮城占拠計画を作成、この不穏な動きに対し方面軍参謀長が近衛師団長森中将に「終戦に決した場合の態度」に対し「師団は盲動せず」と決意、同日深夜、「近衛師団が決起した」の報告が田中司令官に届く。その後「森師団長が殺害」の報告に

来た二人の参謀は田中司令官に東部軍の決起を促したが、説得され、逆に反乱軍説得に向かわされた。

一五日午前二時 田中司令官は反乱軍決起の真相を知る。司令官は直ちに鎮圧しないと重大な事件になると決断、二名の参謀に近衛師団司令部へ情報収集に向かわせ、実情を知ると午前四時参謀長と副官を同乗させて近衛師団司令部に向かい第一歩兵連隊を引率して宮城へ向かう連隊長に「偽命令」である旨説明して、宮城内の第二歩兵連隊長にも行動を中止させ、宮城乾門で出迎えるよう指示。侍従職員に「軍司令官到着、ご憂慮遊ばされることなき」旨申し入れ、次いで宮内省で軟禁されている侍従武官以下の方々を解放し、帰路は配置についている歩哨線を説得しつつ突破し、午前八時半頃帰還。この日午前五時半阿南陸相が自宅

で自決。叛乱将校を捕縛処刑具申に対し「国を思う志を認め自ら責任を採らせよ」と判断され、軍務局首謀者二名は宮城前で自決、近衛師団参謀は森師団長遺骸前で自決した。

### 後世に託された司令官の自決

田中司令官は玉音放送が開始する前に司令部に軍団長及び兵団長を集合させ、放送後屋上に登らせ、宮城前に集まる人々を見て「国民の無事な姿を觀よ」と何度も目頭を拭かれた。

五時頃、陛下から拝調を望まれ参内、「本日の処置に深く感謝する」とのお言葉を賜り、陛下と共に落涙されたメモ書きが残されている。「一死を

もつて皇恩に報いる」と武人の最後を悟られ、皇軍の名譽ある最後を模索する生活が続いた。

二三日 司令官は「久しぶりに自宅に帰る」との行動は家族との最後のお別れだったと操夫人が察し、副官に拳銃を夫に渡すよう依頼。

二四日 川口送信所（対外通信）が陸軍予科士官学校生徒に占拠される事件が発生、副官と二人で出動、生徒全員を集め「聖旨を守り、日本の復興に尽くせ」と司令官最後の訓示に生徒達は感涙して引き揚げた。

帰隊後副官に「夜十一時入室すべし」と指示。十一時和室で肘掛椅子に皇居に向かって机上で拳銃を胸に当て、副官が入室と同時に「宜しく頼む」と呟かれて轟音が響き自決された。

辞世の句「聖恩の忝けなきに吾は行くなり」

昭和四十九年六月

昭和天皇は功績を称え正三位と銀杯を下賜。

田中大将の功績を広く知って欲しいとの元副官塚本氏の尽力で昭和五十年顕彰碑が、龍野公園に建立。毎年八月碑前祭が有志の方々で実施されている。墓は故郷（たつの市掛西町小神）を見守る丘に鎮座。



阿南陸相の専属  
大塚本元  
中官佐  
田中少佐

大将の訓えは幹部自衛官修身教育に活かされている。

### 参考文献

防衛省戦史叢書「本土決戦準備編」  
ああ皇軍最後の日 塚本素山著  
（文責 崇敬奉賛会理事 曾田孝一郎）

# 崇敬奉賛会会員募集

日本のために戦ってくれた  
英霊を大事にしたいと思う人

先祖を敬う心を持っている人

見えないものを受け継いで  
いきたいと思う人

奉賛会に入会して神社を  
支えて下さい

我々と共に英霊に感謝し  
そして汗をかき、  
涙を流しましょう

奉賛会事務局

〒670-0012

兵庫県姫路市本町118

電話 079-224-0896

<http://www.himeji-gokoku.jp/housankai/>

## 新年万灯祭

### 献灯のお願い

毎年一月一日から一月十日の間

新年万灯祭を行っています

ご神前に献灯し

神の庭を明るく照らし

心和やかに、心安らかに

新しい年が迎えられますよう

神前献灯に是非お申し込み下さい

献灯初穂料 一灯 一万円



## 新型コロナウイルス感染症 感染予防の対応

### 秋季例大祭について

令和四年十一月二日(水)

午前十時三十分斎行

神社と致しましては恒例の祭典

でありますので、神事は必ず斎行

致しますが、春季例大祭と同じ

くご参列席は、距離をとって設

営を致します。

ご参拝の方々はマスク着用の上、

手の消毒をしてご参列下さい。

ご自身のご体調を第一にお考え

いただき、ご無理のないように

お越し下さい。

マスクの着用  
手指の消毒に  
ご協力ください

